

ILC 計画の諸課題の進捗状況の確認の視点

1. 共通

- 平成 30 年 7 月の有識者会議報告書（前回報告書）取りまとめ以降の約 3 年間において、提案研究者がどのような取組を行ったか、また、どのような進捗が見られたか。
 - 提案研究者から、説明の根拠は明確に示されているか。また、その説明は説得力のあるものになっているか。
 - ILC 本体の諸課題について、解決の見通しが立っているという状況にあるか。見通しが立っているものについて、今後進めるにあたって留意すべき点はあるか。見通しが立っていないものについて、何が不足しているか。
- ※ 現時点では、具体的な候補地を想定した議論はできないことに留意が必要。

2. 国際的な研究協力及び費用分担の見通し

- 前回報告書取りまとめ以降、政府機関間の意思疎通でどのような進展が見られたか。海外の反応はどうか。
- 前回報告書取りまとめ以降、海外のサイエンスカウンシルの検討や研究者間・研究機関間の意思疎通でどのような進展が見られたか。海外の反応はどうか。
- 現状について、国際的な研究協力及び費用分担の見通しが立っていると言える状況にあるか。

3. 学術的意義や国民及び科学コミュニティの理解

- 前回報告書取りまとめ以降、ILC 計画の学術的意義に変化はあったか。特に、欧州合同原子核研究機構（CERN）が将来円形加速器の技術的・財政的実現可能性調査を開始したことをどのように捉えるか。
- 前回報告書取りまとめ以降、国民及び科学コミュニティの理解にどのような進展が見られたか。
- 学術的意義が巨額の投資に見合うものであるということについて、国民及び科学コミュニティの理解・支持が得られていると言える状況にあるか。

4. 技術的成立性の明確化

(1) ILC 加速器等

- 前回報告書取りまとめ以降、加速器等の技術的課題の解決に向けてどのような取組が進められたか。また、加速器等の技術的成立性に進展はあったか。（加速器物品等のプロトタイプの製作や試験を行う前に解決すべき課題の状況等）
 - 準備段階で解決すべき課題について、ワークパッケージで示されている計画（解決すべき隘路、それに対するアプローチ等）が妥当であるか。
 - 現状について、加速器等の技術的成立性が明確であると言える状況にあるか。
- ※ 「5. コスト見積もりの妥当性」にも関連

(2) 土木工事及び環境・安全対策

- 前回報告書取りまとめ以降、土木工事及び環境・安全対策に関する技術的課題の解決に向けてどのような取組が進められたか。また、土木工事及び環境・安全対策に進展はあったか。(現地調査を行う前に解決すべき課題の状況等)
- 準備段階で解決すべき土木・環境関連の課題について、解決に向けた取組の計画が妥当であるか。
- 現状について、土木工事及び環境・安全対策に関する技術的課題の解決の見通しが明確であると言える状況にあるか。
- ※ 「5. コスト見積もりの妥当性」にも関連
- ※ 立地については、場所を特定しない範囲での確認を行う。

5. コスト見積もりの妥当性

- 前回報告書取りまとめ以降、コスト見積もりに関してどのような取組が行われたか。また、コスト見積もりの妥当性に進展はあったか。(ILC 加速器、施設・設備、周辺整備、土木工事及び環境・安全対策等に関する必要経費の網羅性や見積もりへの最新の知見の反映等)
- 現状について、コスト見積もりは妥当であると言える状況にあるか。

6. 人材育成・確保の見通し

- 前回報告書取りまとめ以降の約3年間において、人材育成・確保に関してどのような取組が行われたか。また、人材育成・確保の見通しに進展はあったか。(必要な人材の質と量、対応策の妥当性と実行可能性等)
- 現状について、人材育成・確保の見通しが立っていると言える状況にあるか。

7. その他

- 提案されている準備研究所の組織や研究開発計画は妥当か。
 - ※ 一部、技術的成立性と重複。
- 技術的・経済的波及効果について